

「矯正・保護ネットワーク」

特別講演会」が開催されました

『更生保護』編集部

平成二十五年十一月十一日(月)

京都・龍谷大学において「矯正・保護ネットワーク 特別講演会」が開催（龍谷大学矯正・保護総合センター主催、浄土真宗本願寺派、法務省保護局、更生保護法人全国保護司連盟、日本更生保護協会等後援）され、齊藤雄彦法務省保護局長が講演されました。

龍谷大学では、長年にわたる矯正と更生保護の教育活動での実績を継承し、新たに刑事政策構想を提言する矯正・保護研究センターを平成十三年に設置、同二十二年、両分野での教育、研究に加え社会

貢献を目指して矯正・保護総合センターを開設されました。以来、矯正・更生保護の実務家や関係する方々、関心を持つ多くの方々の議論、研修の場として、広く開放活用されてきました。

「更生保護の課題と展望」と題されたこのたびの講演では、更生保護制度の概要に始まり、再犯防止は国家的課題であることから、それに向けた法整備の状況や、再犯防止のための個別施策として保護



パワーポイントを使っ
ての講演

司制度の維持・発展、住居の確保と就労の推進など、昨今、更生保護の抱える課題について話されました。さらに、改善更生の困難なケースへの対応や多機関との連携等に触れて今後を展望され、最後に法務省保護局公式ツイッターも紹介されました。

質疑応答では、閉会時刻の迫る中、挙手が続き、「初犯をなくしたいが」と問われた保護司さんに、「刑法犯認知件数が減少しているのは、これまで活動してこられた保護司さん方のおかげでもあります」と答えて締めくくられました。浄土真宗本願寺派を設置母体とする龍谷大学の礼拝堂である顕真館を会場に、荘厳な中、学生や矯正、更生保護関係者約三二〇人が熱心に耳を傾けられました。